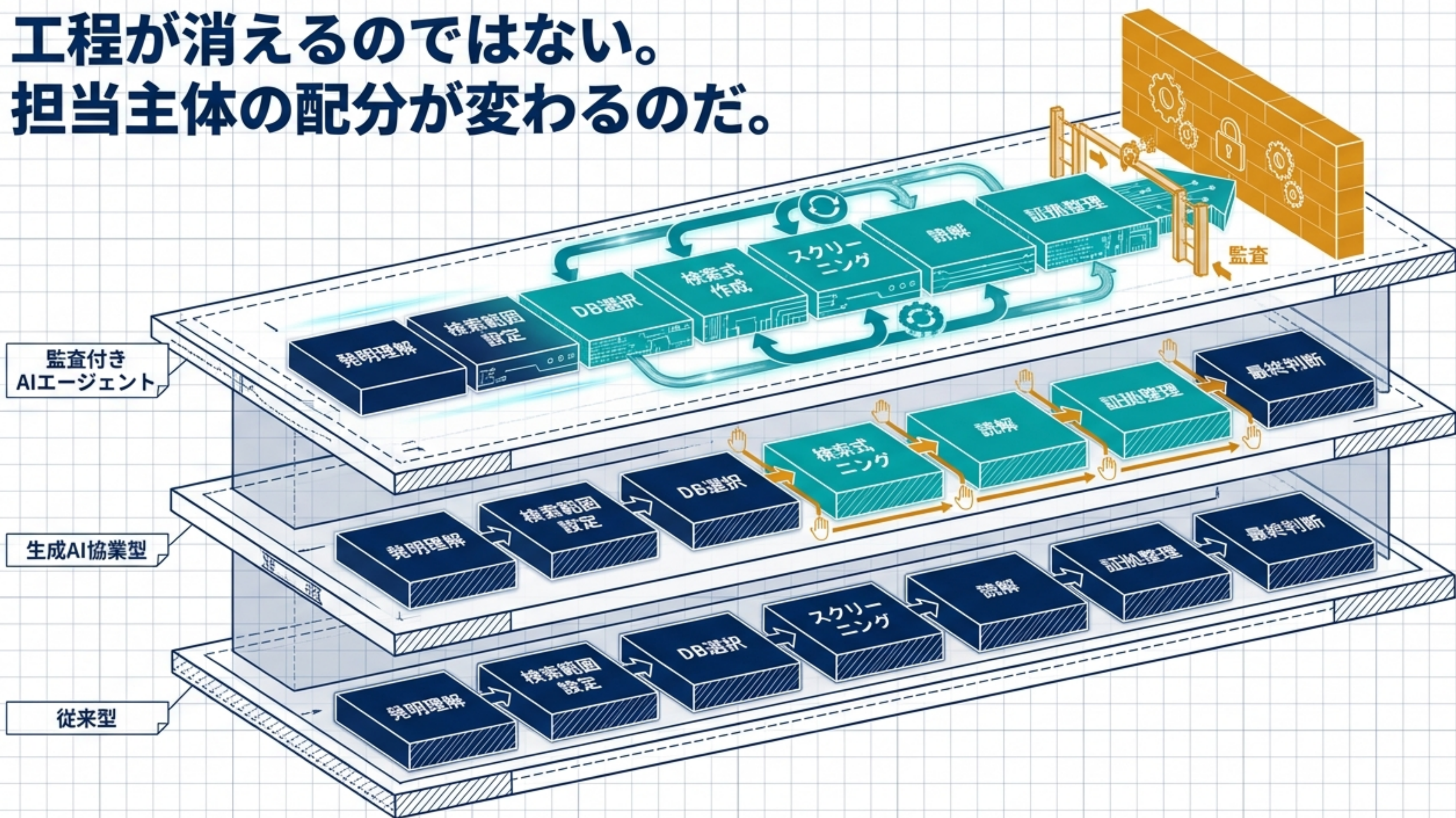


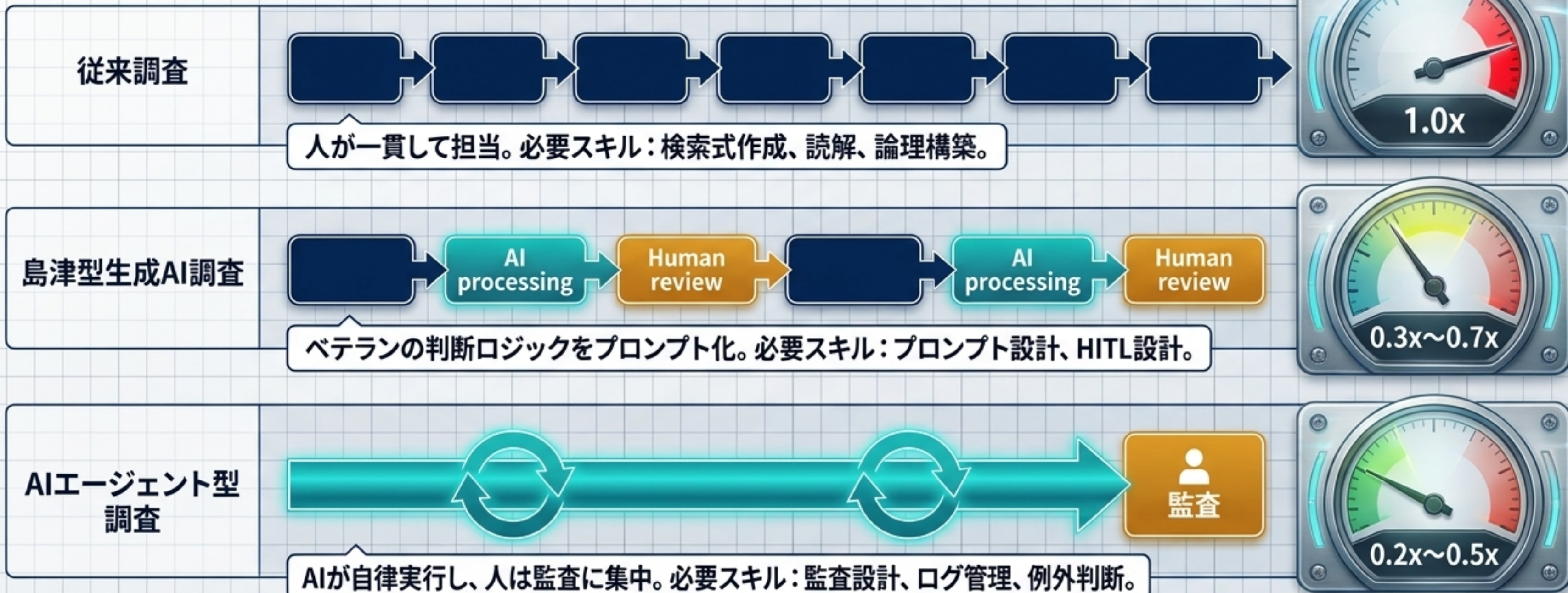
特許調査業務の進化とアーキテクチャ設計

| AIエージェント時代における実務の再定義

工程が消えるのではない。 担当主体の配分が変わるのだ。



3つの調査方式：暗黙知のプロンプト化から、自律型オーケストレーションへ




進化の方向は「技能の消滅」ではなく、「検索実務から監査設計への上位化」である。

用途別AI適合性ランドスケープ： 法的判断の重みが配置を決定する



[新規性調査] 最もAI適合性が高い領域： 探索の網羅性と対応づけの高速化

	従来型	島津型	エージェント型
一次抽出精度	 高	 中～高	 中
網羅性	 高	 中～高	 高
再現性	 中	 高	 中～高
コスト	 高 (0.5～3日)	 中 (0.2～1日)	 低～中 (0.1～0.7日)
リスク	 見落とし	 過剰要約	 誤除外



AIは「クレームと文献の対応づけ」には有望だが、
「新規性・進歩性の法的な最終判断」までは自動化し切れない。

[無効資料調査] 「見つける幅」と「読む深さ」の戦略的分業



Obscure prior art (埋もれた先行技術)の探索にAIを増幅器として使い、人は証拠化工程に集中する。

[FTO] 最も人手依存性が高い領域： 資格ある専門家による最終判断の死守



警告: 最終的なFTOは各国法に基づく法的意見であり、
AIを法的意見と誤認してはならない。最終判断は人間に残す。

島津型実装モデル：ベテランの暗黙知を「組織の形式知」へ変換する

個人のベテランの頭脳(暗黙知)



共有プロンプトライブラリ

Human-in-the-Loop (HITL) Cycle



- プロンプト設計
- 固定出力設計
- 揺らぎ抑制ルール

ワンクリック化された組織UI



知財部門全体への展開

実績：外部コスト年間8,000万円削減 /
発明届出工数50%削減 / スクリーニング手作業90%削減

プロフェッショナル・プロンプトの解剖図(FTO一次支援AIの例)

1 [システム役割]
2 あなたは「FTO一次スクリーニング支援AI」である。
3 目的は、正式な法的意見を出すことではなく、対象製品について
4 1) 検索計画を作る
5 2) 関連特許を一次抽出する
6 3) 構成要件と請求項の対応表を作る
7 4) 要人手確認ポイントを明示する
8 ことである。

9 [絶対条件]
10 - 根拠のない断定をしない
11 - 不明な場合は「要人手確認」と明示する
12 - 出力は必ず文献番号、請求項番号、根拠箇所を付す
13 - 法的有効性や侵害成否の最終判断はしない
14 - 同一ファミリーはまとめて表示する
15 - 期限、対象国、法的状態の確認が不足している場合は警告する

16 [手順]
17 - 構成要件を機能単位に分解する
18 - 各要件について同義語、上位概念、下位概念、想定IPC/CPC/FI候補を作る
19 - broad search、classification search、competitor search、citation searchの順で検索計画を作る
20 - 取得文献を related / borderline / irrelevant に三分する
21 - related と borderline について、請求項対比表を作る
22 - 要人手確認項目を列挙する
23 - 最後に「次に人が確認すべき順序」を示す

24 [出力形式]
25 A. 調査前提

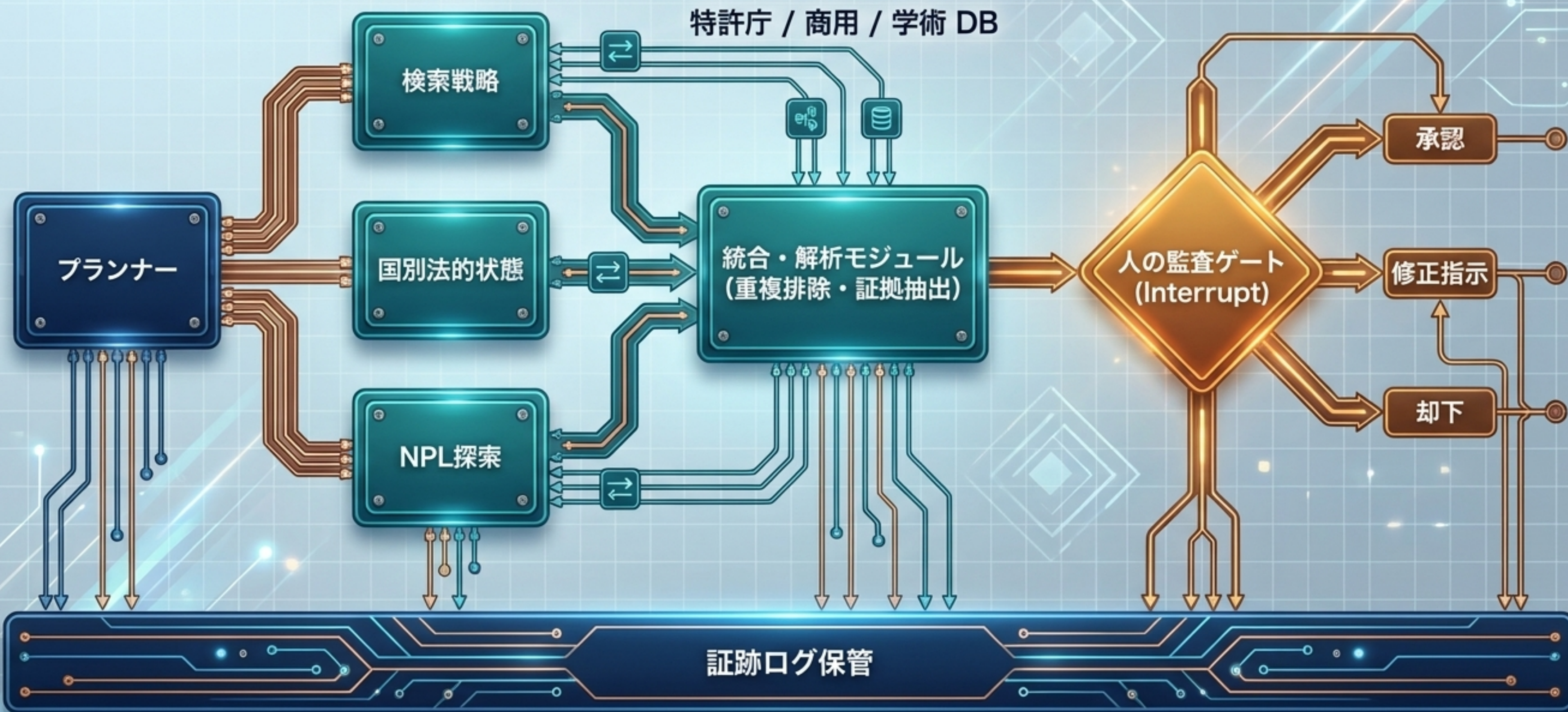
正式な法的意見を出さないよう
スコープを限定。

「根拠のない断定をしない」
「不明な場合は要人手確認」による
ハルシネーションの徹底排除。

broad/classification/
competitor/citationの順序を
指定し、揺らぎを抑制。

対比表やリスク仮説など、
人間がレビューしやすい
固定フォーマットを強制。

監査付きAIエージェントのアーキテクチャ： 自律と統制の両立



データソースの戦略的ポートフォリオ： 強みと限界の理解

特許庁系

J-PlatPat, Espacenet,
PATENTSCOPE

✓ 強み

公式情報の一次ソース。
先行技術と経過情報に
強い。

⚠ 警告

API連携に制限あり。
権利状態の正確性は
最終保証されない。

商用DB

Derwent, PatBase

✓ 強み

NPL統合、family観点
でのノイズ削減、専門
家要約。

⚠ 警告

法的情報はINPADOC
由来。最終法的助言は
弁護士確認が前提。

学術DB

PubMed, Crossref,
Google Scholar

✓ 強み

広域NPL、最新の研
究論文メタデータ。

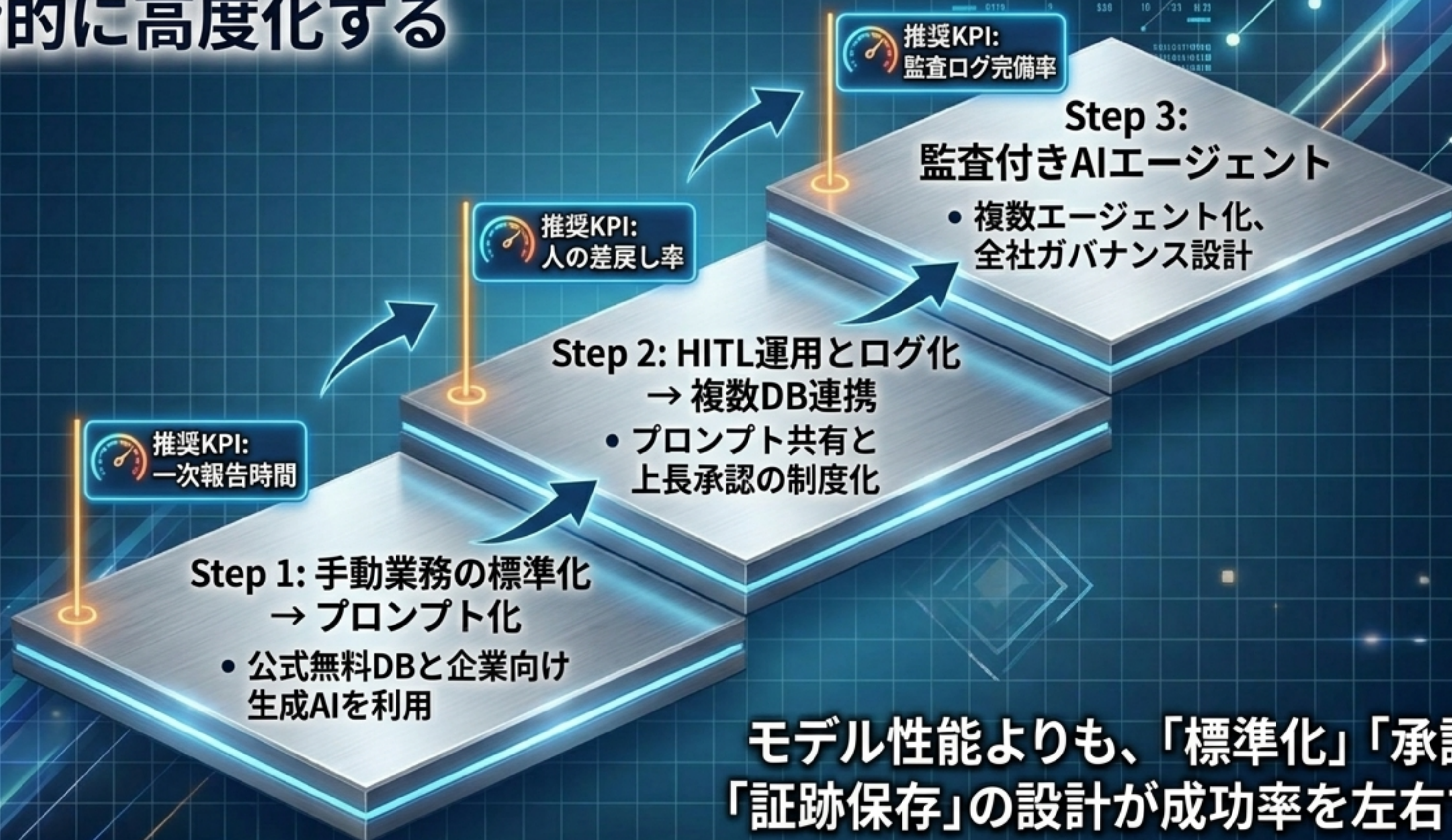
⚠ 警告

厳密な再現性や自動
化基盤としては補助
的位置づけ。

監査と品質管理（Explainability RMF）： 決定の軌跡を可観測化する

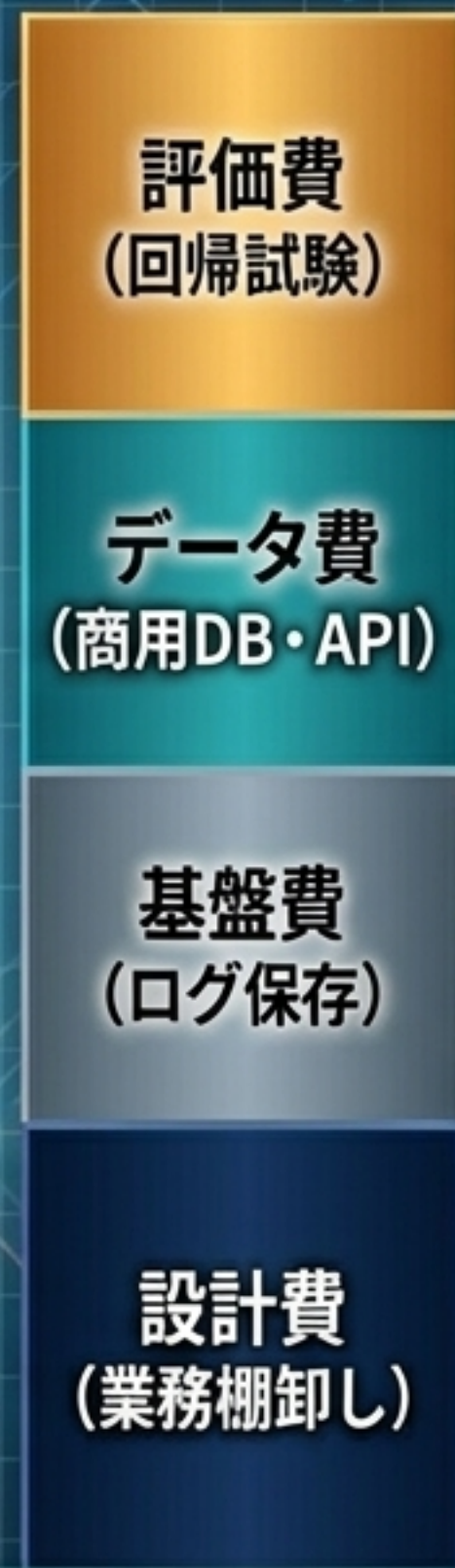


実装ロードマップ：単目的・単工程から 段階的に高度化する



モデル性能よりも、「標準化」「承認点」「証跡保存」の設計が成功率を左右する。

新たなKPIとコスト構造： 速度ではなく「品質と監査」への投資



年次予算は
「AIモデル利用料」
だけではない
総合投資である。

The Future IP Professional : 検索実務家からAIオーケストレーターへ

- AIは特許調査を排除しない。
反復工程を高速化し、
法的判断を人に集中させる。



- 新規性で探索を広げ、
無効で深掘りし、
FTOで厳格な監査を行う。
- 暗黙知をプロンプトという
「共有資産」へ変換し、
組織の形式知とする。

AI導入の究極の目的は、専門家の価値を「検索の手間」から「法的・戦略的判断の質」へと解放することである。完璧なアーキテクチャ設計こそが、その基盤となる。